



## 須田 眞美子 (ピアノ) Mamiko Suda



第 16 回全日本学生音楽コンクール小学生の部全国第 1 位。第 36 回日本音楽コンクール第 2 位。桐朋女子高等学校音楽科を首席で卒業。パリ国立音楽院首席卒業。ハエン国際ピアノコンクール、カサ格蘭デ国際コンクール入賞。1980 年モーツァルト国際音楽コンクール ( ロンドン ) ピアノ部門 1 位。翌年よりハンガリーにてアニー・フィツシャー女史の薫陶を受ける。第 11 回日本ショパン協会賞受賞。"スペイン夏の音楽祭" に招かれ、ウィーン弦楽四重奏団と共演したほか、ヨーロッパ各地でリサイタルやオーケストラとの共演、室内楽などで活躍。

また国際コンクールの審査員としてもジュネーブ国際コンクール (2005 年)、パナマ国際コンクール (2014 年、2016 年)、マリア・カナルス国際コンクール (2017 年)、ヘイスティングス国際コンクール (2019 年) などに任命されている。2012 年より日本音楽コンクールの運営委員に任命される。

さらに今日に至るまでアジア、ヨーロッパ 20 カ国にわたり毎年音楽大学やナショナルアカデミーにおけるマスタークラスやサマーセミナーにプロフェッサーとして招かれている。

2016 年から 2020 年まで"ニース国際音楽アカデミー in いわき"においてオリヴィエ・ギャルドン氏と共に演奏と指導にあたる。現在、桐朋学園大学の特任教授として後進を指導し、日本音楽コンクールを始め、国際コンクールにおいても優勝及び入賞者を多数輩出し、その活躍は多岐にわたっている



フランス北部に位置する古都ルーアン。印象派の画家クロード・モネが感銘を受け絵画を残した大聖堂があり、またかつてはジャンヌ・ダルクがこの地で生涯を閉じ今でもその名を冠した建築や橋が残る歴史ある都市である。そのルーアン市において、1975 年に「音楽の国際的な出会い」という主旨で演奏会が企画された。第 1 回目の演奏会にパリ音楽院を首席で卒業しブゾーニ国際コンクールでファイナリストに選ばれるなど新進気鋭のピアニストであった須田 眞美子氏が迎えられ、その後錚々たる名ピアニストらがこの演奏会に出演した。スヴァトスラフ・リヒテル、タチアナ・ニコラーエワ、須田氏も師事したヴラド・ペルルミュテール…いずれも 20 世紀の歴史を彩る音楽界の重鎮ピアニストたちである。そして記念すべき 50 周年のリサイタルが昨年 2025 年 6 月に開催された。長年にわたって開催されたシリーズのフィナーレを飾る演奏家として再び須田氏が招かれ、その演奏で聴衆を魅了し感動に包まれながらこのアソシエーションの幕を閉じた。



ショパンゆかりの、フランスの古都ルーアンで行われた「音楽の国際的な出会い」リサイタルの出演者たち



第 1 回を飾った須田先生



リサイタルのチラシ